

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073000491		
法人名	株式会社 データベース		
事業所名	我楽ちくしの		
所在地	筑紫野市大字山口865-1 (電話) 092-929-3100		
自己評価作成日	平成 30 年 8 月 20 日	評価結果確定日	平成 30 年 11 月 30 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- ・規則のないことが規則で、入居者様本位の生活ができるように支援している。
- ・地域との連携を大切にする。
- ・1汁4菜の充実した職員手作りの食事を提供している。
- ・年2回の家族交流会で地域と家族との交流を行なっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 30 年 9 月 11 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

山村里山に立地し、地域との連携が取れた事業所である。その為、地域住民との協力関係は密である。食事にはこだわりがあり、季節に合わせて家庭料理に近づける様に取り組んでいる。お節料理も入居者一人一人に三重ねの重箱に料理を詰めて提供している。誕生会も月単位ではなく、一人一人の誕生日にあわせてお祝いをしている。スタッフは社会経験を積み重ねており落ち着きがある。一挙手一投足が自然体で穏やかさを感じさせ、質実さと重厚さを感じさせる。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送りの際に入居者様の状態を確認後、理念の唱和を行い、理念の意識付けをしている。	理念として、“御家族等との交流を持ち地域の行事活動に参加する”を掲げており、地域密着の視点を有している。毎朝の申し送り時には理念の唱和を行っている。先輩職員が時宜に応じて理念を現場実践に活かすよう指導している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加、回覧板の配達、公民館の清掃作業などにも協力している。	自治会に加入しており、夏祭り、秋祭り、神社清掃に入居者、職員が参加している。近隣住民から野菜等のおすそ分けがあり、地域の一員として親しく交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区コミュニティセンターでの集會に参加し、施設の説明や地域との交流について地区の方々と話している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市、包括、地区の方々から情報を頂き活用している。とくに区の方々との情報の中から施設としての役割を見つけ出し、協力体制を築いている。	運営推進会議は二ヶ月に一度開催され、サービスの実際や外部評価についての取り組みが報告され、会議で出された意見をサービスの向上にいかしている。具体例として、ヒヤリハットと事故について、その区別と適切な対応について意見があり社長はじめ全職員が認識を深めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類の提出時や運営推進会議でいらっしたときに話をするようにしている。また、市からの依頼により身寄りのない方の受入れを行っている。	生保受給者の入居に関する行政との連携、包括センターとの独居問題、認知症への啓発と協力や自治区会主催の認知症発症者への声かけ運動の実践を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の状態によりスタッフで話し合いを行い、拘束のない介護に努めている。また、講習があるときは出来る限り出席し、その都度勉強会を行うとともに実践している。	身体拘束廃止権利擁護委員会を立ち上げて、定期的に意見交換を行っている。日中玄関、居室への施錠は行っていない。外部研修、伝達研修も行われている。身体拘束は行っていない。身体拘束に関する指針はある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	身体的なことだけでなく、言葉の虐待についても担当者を決めて勉強会を行い実践している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パソコンより情報を集め、勉強会を行っている。また、入居者様の後見人となっている司法書士の方に相談している。	外部研修に参加して伝達研修が行われている。外部研修への参加者も固定されずに職員全員の参加を目指している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必ず施設の種類から説明した上で、不安や疑問点を尋ね説明している。また、施設での看取りや緊急時の対応等についても家族へ十分な説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来られた際、直接話す機会を設けている。また、玄関に外部相談窓口のポスター等も掲示している。	利用者、家族との関係は良好で職員に気軽に話しかける関係が構築されている。料理の内容、席の配置や桜、コスモス、紅葉見物等の外出がなされている。遠方へも希望によって出かけている。家族会は年に二回開かれ、入居者、家族、近隣住民を招いてバーベキューを行っている。入居者、家族からの要望に出来るだけそえるように取り組んでいる。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に施設を巡回し、朝の申し送りなどに参加し職員の意見を聞いている。	自己評価は、全職員の意見を聴取して作成されている。現場での会話を通して運営に関する職員の意見を聞き運営に反映している。事例として職員の要望によって勤務のローテーションの変更や入浴時の時間短縮のため着替えを前もってセットしておく提言を取り入れている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績を含め、給与や賞与の改善に努めている。また、残業はイレギュラー時以外しないよう指導を行い、サービス残業は皆無である。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	男女経験問わず採用し、入社後は既存スタッフによる研修フォローやOJTを行っている。	スタッフの年齢分布は、36歳から68歳で職員構成は男性3名、女性9名である。定年は65歳であるが体力と気力があれば年齢に関係なく延長される。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	代表者及び管理者はスタッフの手本となるよう、積極的に入居者様とご家族と接している。 また、勉強会を行いスタッフに周知し、実践するようにしている。	今年度中に研修を受講する計画をしている。研修記録や計画等の関係資料を確認することができなかった。	今年度から研修記録や報告書を整備するよう努めてください。また、伝達研修を行ってほしい。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り外部研修や資格取得の講習へ参加できるよう人員調整を行っている。 また、ある程度経験年数を重ねた者にはその経験に見合った資格取得を勧めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム評議会に加入し、会が主催する研修などに参加している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	代表者及び管理者が、入居前にご家族からできるだけ多くの情報を収集し、できることとできないことを洗い出し、スタッフと打ち合わせを行い対応している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族や包括、民生委員や病院等から情報を集め、要望等考慮してどのような支援を行うかご家族にお話する。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様が自分の家で過ごしているような環境づくりのため、ご自身で使用されていたものを使用させていただく。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何らかの不穏状態になられても、職員が側に付き添い話を傾聴する。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や遠方のご家族には電話や手紙により近況報告を行い、相談している。 また、年2回家族交流会を開催し、ご家族と入居者様が定期的にお会いできる場をつくっている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の希望に添って、面会や外出、外泊など支援している。	職員は、利用者の生活歴、馴染みの人や場所を把握しており主として通院の際に、なじみの場所に行くことがよく行われている。その際には、知人との会話がなされてる。一人住まいをしていた入居者の希望で生活していた家に荷物を取りに行くこともある。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格等もあり、スタッフが観察し話し合って食堂の席替えなどを行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた入居者様のご家族の方がボランティアで草刈りなど協力してもらっている。 また、退所後もし相談等あれば連絡して頂くようお願いしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様本人やご家族の希望を優先し、居室での食事や入浴日など対応し、無理強いはない。 また、食べるペースが遅いからと言って食事を引き下げることはせず、その人に合わせた介護を行っている。	入居者の生活歴や性格を家族や知人から聞き取りしものをベースに、入所後の観察で蓄積されたデータを通して、仕草、行動を分析して思いや意向の把握に役立てており、事業所内で共有されている。本人の希望や意思の把握が概ね出来ている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に病院、包括、民生委員の方から情報を頂き、スタッフでカンファレンスを行い介護計画に反映させている。 また、本人との会話の中から情報を見つけ出し、計画に活かしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の入居者様との会話や申し送り、状態記録により、入居者様の現状把握をしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月スタッフ全員で入居者様のモニタリングの結果を話し合い、介護計画を作成している。	半年毎に介護計画の見直しを行っている、家族の意向や医療的な意見、生活状況を全職員より聞き取り、介護計画の作成をしている。家族が来所時へ説明を行い介護計画に署名捺印をもらっている。遠方に家族については電話連絡や郵送を行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護実践に基づき朝の申し送りを行い全スタッフに情報伝達し、意見を取りまとめて介護計画に反映させている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族と話し、基本的に柔軟な支援サービスを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の希望等により、地域の店へ同行し食事、買物を楽しんで頂いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に基本的に提携医療機関の説明はするが、施設方針としては本人またはご家族の希望に沿うようにしている。提携医ではなく入居者様、ご家族の希望先への通院介助も行っている。	契約時に受診の支援については説明を行い利用者家族より承諾を得ている。看護師が同行し送迎の支援を行っている。情報の伝達については、家族が同行できない時は施設より電話で報告をするようにしている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職も日々入居者様に係っており、状態により適切に接している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院期間はスタッフがほぼ毎日訪院し、医師へ状態の確認を行い意見などを頂き、ご家族へ連絡をしている。その際に洗濯物を持ち帰っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時点で皆様高齢化されていることもあるが、入居契約時にターミナルケアについての説明を行い、ご家族に理解して頂いている。	終末期、看取りの対応については明文化されており、利用開始時に説明を行っている。状況に応じて事業所が行える対応や家族の意向等の確認を行い医療関係者、全職員が情報の共有ができるように支援を行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応等に備え、連絡網の表示をしている。また、応急手当等について看護職からの指導等による勉強会を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災に対する行政の指導もあり、消防署はもちろん地域消防団の地区の方々を含んだ協力体制の訓練を行っている。	防災マニュアルを作成し、年2回、うち1回は消防署の協力を得て訓練を行っている。夜間を想定した避難訓練も行っている。避難訓練の時は地域の消防団の分団長の参加もある。備蓄に関しては水分、非常食は事業者内に用意をしている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	友達のような言葉遣いではなく、人格を尊重した言葉で声掛けをする。	排泄の失敗時など人前であからさまに声をかけるのではなくさりげなく誘導を行う等誇りや人格を傷つけないように声掛け対応を心がけている。管理者等が気付いた時には指摘している。また、朝礼時には話をするなどしている。今年度中の研修計画がある。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を話しやすい環境作りを心掛け本人の話を傾聴する。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事の時間等、個人の希望を優先している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人やご家族の希望を取り入れて支援している。また、季節により洋服の入替等も支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日は本人の好きなものを聞いて食べてもらう。 元気な方には、茶碗洗いや洗濯物たたみのお手伝いをしてもらっている。	食事の後片付けは一緒にできる利用者もいるが、準備に関しては心身状態の重度化もあり行っていない。日常的な食事は職員と一緒に食べる事はない。正月や家族会など行事食の時は一緒に食べている。利用者に合った食事形態の提供や誕生日にはその方の希望に添ったメニューを提供して食事が楽しみになるように支援をしている	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のバイタルチェックや排尿のチェックを行い、個々の状態に応じた料理法により支援を行う。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後は必ずスタッフが口腔ケアの介助を行う。また、訪問歯科による専門的な口腔ケアを行う。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使って排泄パターンをチェックし、紙パンツの方でもトイレへ誘導し介助を行っている。	排泄チェック表を活用してトレイ誘導を行っている、そわそわしていたり、食事の前後でも声掛けを行い誘導をすることでほとんどの方がトイレでの排泄ができています。夜間はリハビリパンツを使用している利用者も日中は布パンツで過ごす事ができています。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の申し送り時に個々の状態を報告し、下剤や摘便を行うなど医師の指示も含め対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日以外でも尿失禁や便失禁があった場合、適時対応している。	週に2回の入浴を実施している、入浴日以外の希望時は清拭で対応をしている、入浴拒否があった時は、声を掛ける職員を変える、時間を置いて声を掛ける、浴槽を見せようとして入浴をされるなど一人ひとりの性格や習慣にあった入浴支援と誘導を行っている。	勤務シフトの調整等により、一人一人の希望に合わせて、毎日入浴できるようにしてほしい。
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的に訪室し、室温の調整や窓を開けて換気などを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最近の後発薬が増えてきており、薬局、看護師、スタッフで確認し担当医の指示のもと服薬介助している。薬の変更後は状態確認を行い担当医へ報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のいっしょ会で歌、ゲーム、体操を行ったり、スタッフと庭を散歩したり買い物に同行したりするなどの支援を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限りご本人の希望に沿えるよう努めているが、現状あまり出来ていない状態である。	希望により事業所の裏庭で外気浴を行っている。利用者の受診、買い物支援時に、ドライブを兼ねている。桜見物に近くのお寺へ行くこともある。家族の支援でお墓参り、職員と共に荷物を取りに自宅へ一緒に行くこともしている。できるだけ戸外へ出かけられるような支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理出来る方が少ないため、事務所でお小遣いとして預かり外出時にはスタッフが同行しご本人に支払いをして頂いている。 また、ご自身やご家族の希望があれば少額お渡しし、ご自身で管理して頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等へ電話をしたい申し入れがあったときは、スタッフが電話をかける支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はとくに清潔を保ち、玄関には花や観葉植物を飾り季節を感じてもらおうようにしている。また室温等についてはスタッフが管理している。	廊下には油絵、色鉛筆画など飾っている、洗面所には季節の切花、食堂には鉢植えがある。食堂には利用者が作った季節の貼り絵、折り紙、塗り絵なども掲示してある。テレビの音や職員の声も丁度よく利用者が不快になるようなことはなく居心地の良い空間作りをしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ、廊下にはベンチを置いている。また、個人の席については状況を確認しながら変更したりしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みのものを持ってきてもらっており、自宅にいるように感じてもらっている。	家庭より筆筒・ソファなど馴染みの家具や、家族写真、位牌などを持ち込まれており、利用者の個性が感じられる居室となっている。ベッドは事業所が用意しているが利用者の心身状態により介護用ベッドの利用もされている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入浴の時など自力で出来る部分はご自身で洗って頂き、出来ないところはスタッフが介助している。また、洗濯物たみ等のお手伝いをお願いしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が		
				② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人として理念を掲げており、全てのスタッフがその理念を共有し、毎朝のミーティング終了後に理念を唱和し意識付けを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	山口地区の徘徊模擬訓練へのスタッフ参加や、施設での防火訓練に区の消防団の方に参加してもらったり、家族交流会に区長様や区民の方に参加してもらうなど地域との交流を図っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括や民生委員の協力のもと、地域での認知症で一人暮らしの方や居宅介護が難しい方の受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族代表の方や地域の方々より意見を頂き実施している。非常災害時の対応等について色々な意見交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の職員が出席されるためその時に意見を頂いている。また、1階同様市からの依頼により身寄りのない方を受け入れている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言登録事業所として登録しており、入居者様の状態については毎月ミーティングを実施し、拘束のないか小木の実践に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	身体的はもちろんのこと、入居者様に対しての言葉遣いに注意を促す。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修などに参加し、事業所内の研修を行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、ご家族やご本人とお会いし十分に説明を行い同意書を頂いている。また退去時にも分かりやすい言葉で説明し、ご理解頂くまで説明をしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には常時意見箱を設置している。またケアプラン作成時にはご家族の意見を直接お伺いして反映させている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表は定期的に各施設を訪問し、職員の意見や提案の実施、行事等の事前打ち合わせに努めている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者の意見や実際の現場を確認し、指示や意見交換を行い、職場環境の整備等に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢や経験等に関係なく希望者は採用し、管理者やスタッフの協力のもと施設での生きがいを見つけられるように努めている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	代表や管理者は入居者様との会話を第一に考え、スタッフに対する人権教育を行っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社協で行われている新任職員研修等への参加や施設内実習には必ずスタッフがついて指導している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「介護を考える家族の会」での交流会で、他の施設の方たちとお会いする機会ができたので、今後につなげたい。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族から今までの状況確認情報を頂き、またご本人との会話の中から信頼につながる状態を見つけ出し施設サービスに反映させる。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に施設入居について十分納得されるよう心配事など細かくお話し、施設と入居者様やご家族との関係を深めていく。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からの情報をもとにスタッフ、ケアマネージャー等でミーティングを行い介護計画を作っていく。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅での生活と同じように洗濯物たたみ、食器洗いなどその人の出来ることの中で他入居者様やスタッフと一緒に施設での生活を送ってもらう。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の希望があれば、自宅への外泊やお出掛けの援助を行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方たちが把握されている範囲で対応に努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事をする席など入居者様の立場になって考え、良い環境を見つけるようにしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や特養などへの転居希望などあった場合には、病院や地域包括などと連携しながら援助しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段からの声掛けや様子観察を行い、押しつけなどせずにご本人の話を傾聴し、意向の把握に努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけ入居前にご本人とお会いし話をし、今までの生活や本人の好きなこと等をスタッフで話し合い見つける努力をしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分で出来ることは見守りの中でのなるべくして頂いたり、話を傾聴することで本人の心身状態等を確認しています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や関係先からの情報をもとにケアマネージャー、スタッフとミーティングを行い計画の作成をしている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施記録表の活用や気付いたことなどは職員で回覧など行い、回覧後職員はサインするようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り個々の状態に合わせたサービスを提供できるよう、スタッフ間で話し合いを行い柔軟に対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近郊でのお花見や地域の催し物などの見学に行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に施設の提携先病院をおすすめしているが、本人や家族の希望があれば入居前のかかりつけ医に受診介助を行っている。体調により訪問診療、訪問歯科も実施。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療を受けている入居者様に関しては、体調不良の際訪問先へ連絡し指示をもらう。訪問診療を受けてない入居者様に関しては、かかりつけへ受診の介助や家族への連絡等も行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	基本的には毎日面会等で状況を確認し、ご家族への受診結果連絡を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の説明で看取りについてや重度化対応の説明を行っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡網の表示や、年2回の避難訓練、AED講習等を実施している。また、夜間の入居者様熱発時等のオンコール体制をとっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自然災害が発生しそうなどときには前日から避難経路の確認、食料の確保、実際起きた場合のシュミレーションを行いスタッフ全員に周知を行っている。 また、避難訓練の際に地域消防団の方に参加して頂いている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室入室の際は必ず声掛けやノックをしてドアを開ける。 入浴に関しても本人の希望により脱衣所待機しドアを開ける時は声掛け確認する。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から入居者様とお話し、話しやすい雰囲気作りに努めている。 また、意思を伝えることが困難な方には声掛けに加え、日頃の動作や表情の違いから、意思を汲み取るよう努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝については、体調やご本人の希望を優先し対応している。食事に関しても、ご本人の意思や状況により時間をずらしたり居室で召し上がっていただいている。入浴についてはバイタルを確認したうえで、可能な限りご本人の希望される時間で入浴できるよう対応している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際、ご自身で選べる方には洋服を選んで頂いてる。ご自身で選ぶことが困難な方には、スタッフが季節や入居者様の好みにあったものを準備している。 また、2ヶ月に1回訪問理美容があり、ご本人の希望によりカットしてもらっている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使った料理や、行事やイベントの際にはそれに合った料理を提供し、食事を楽しんで頂けるよう工夫している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1汁4菜を基本とし、それぞれの状態に応じ、主治医へ相談の上、普通食、刻み、ミキサー等の食事形態で提供している。水分補給は決まった時間に提供し、個人に合わせてとろみを使用したり、水分量チェックを行い適宜提供している。また、なかなか水分を摂りたがらない入居者様には、好みの飲み物を提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様に応じて口腔ケアを行い、必要に応じて歯科受診や訪問歯科を利用し、適切な口腔ケアを行えるよう努めている。また、歯ブラシだけでなく口腔ケアティッシュなど必要に応じて使用している。義歯の方はスタッフで管理を行い、週2回薬剤洗浄を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンを把握するよう努め、それに合わせてトイレ誘導などを行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便の有無を毎日確認し、便秘気味の方には主治医と相談の上内服薬や坐薬等を使用している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴前にはバイタルチェックと共に、ご本人の表情や顔色等で様子を観察し、体調不良などないかを確認した上で入浴して頂いている。入浴日を決めているが、ご本人の要望や身体的心理的状況により予定をずらすなど、臨機応変に行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様が傾眠気味、体調が悪そう等状態に応じて、適宜居室誘導を行いベッドで休んで頂いている。反対にベッド上での生活が多い入居者様は状態を見ながら離床し、リビングで過ごして頂いている。また、週に1回は理念交換を行い、安眠できるよう配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報をもとに個々の服薬内容を確認している。薬の変更があった際は申し送りへ記入、口頭でも説明し、周知を行っている。また、変更後の状態の変化に注意している。 服薬時には読み上げ、ご本人との確認を行い、誤薬のないよう努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の力に応じて洗濯物をたたんでいたり、茶碗洗いをしていただいたりとお手伝いをして頂く。 また、歌が好きの方には音楽をかけたり一緒に唄うなど気分転換を図っている。 不定期ではあるが、気温や天候によりお散歩へお連れしたり、施設の庭でできた野菜や果物の収穫を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ、イベント等に少しでも外に出られるよう努めている。 また、ご家族と一緒に外出するときには、トイレ誘導や身だしなみを整えるなど外出準備を行い、スムーズに外出できるよう支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理出来る方が少ないため、事務所で小さく預かり外出時にはスタッフが同行しご本人に支払いをして頂いている。 また、ご自身やご家族の希望があれば少額お渡しし、ご自身で管理して頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身から電話を掛けるなど困難な方が多いが、掛かってきた電話を取り次いだり、電話でのお話が困難な方には話の内容をお伝えするようにしている。 また、手紙が届いたときには、ご本人へお渡ししたり、代読することで手紙の内容をお伝えしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様たちで作った作品などをリビング内に飾ったり、季節に合わせた飾りつけを行っている。 また、室温湿度管理に注意をし、冬場は加湿器を導入し感染症予防を行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の相性等を考慮し、ある程度の席を決めている。 また、リビング内や廊下にソファや長椅子を置き、思い思いに過ごせるような空間づくりを行っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面を配慮し、自由に室内のレイアウト、模様替えをして頂いている。 また、入居前に使用していたものを置いたり、ご家族との写真を飾ったり、ご本人が自宅のように過ごせるよう配慮している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	随所に手摺を設置し、床に不必要な物を置かず、立位や歩行等しやすいようにしている。 また、ご自身で分かりやすいようにお手洗いへの案内表示をし、使用時以外はトイレのドアを開けたままにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項目	取り組みの成果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない